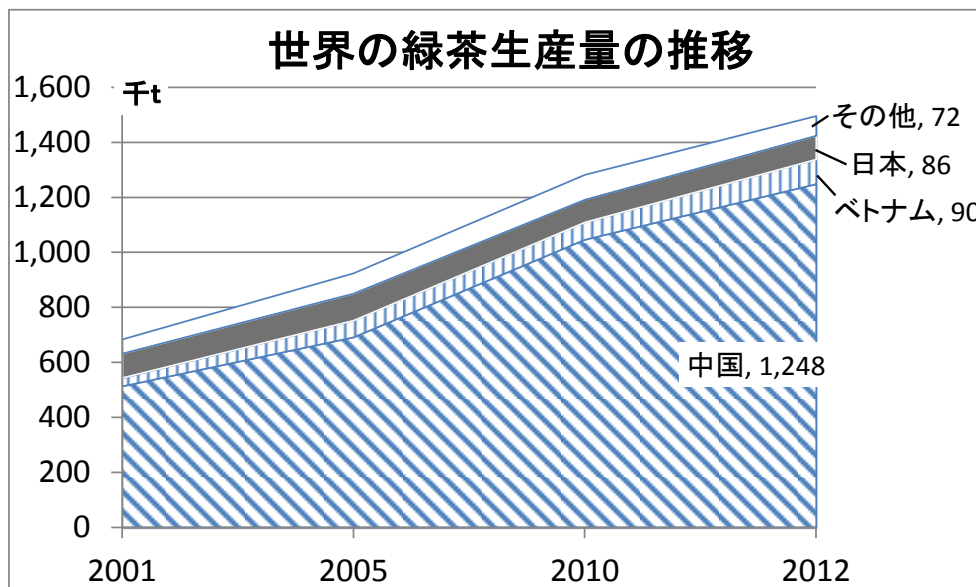
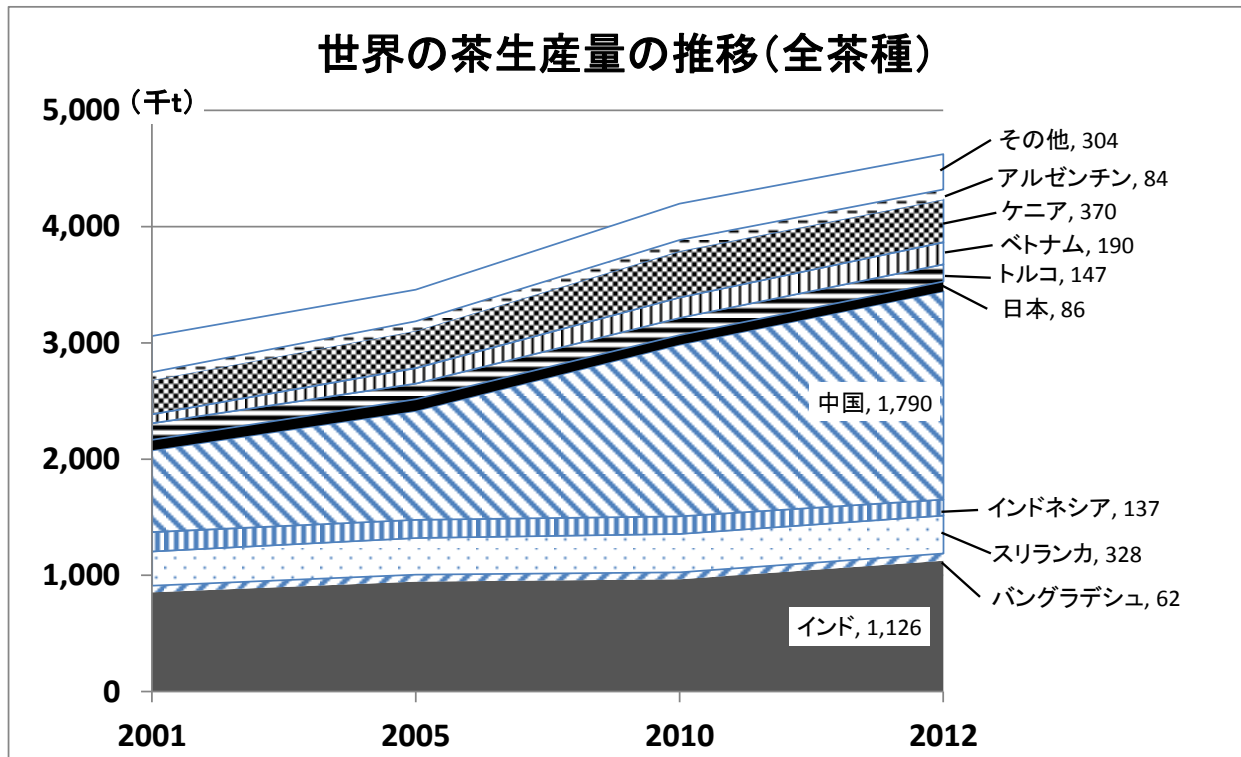


世界の茶の現状について

※資料中のデータの出典は全て International Tea Committee「Annual Bulletin of Statistics」

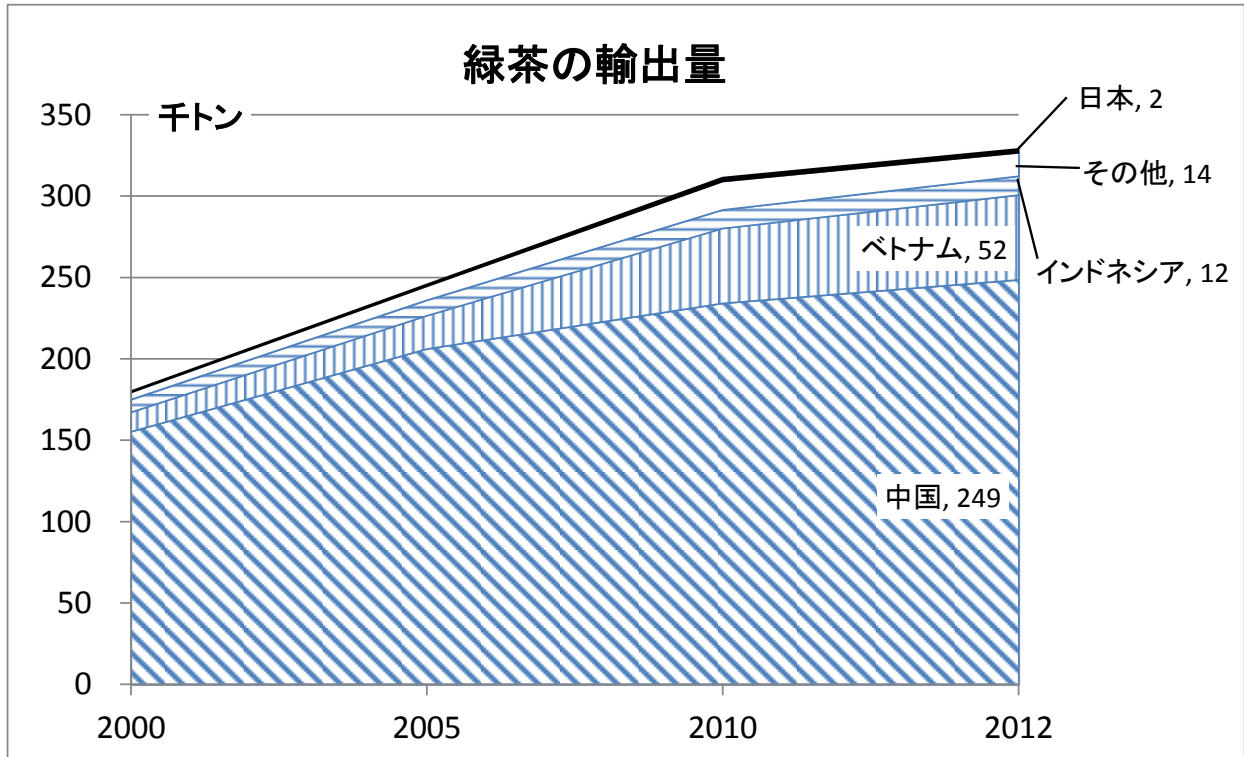
① 世界の茶生産量の推移(全茶種:緑茶、紅茶、烏龍茶など)

- 世界の茶の生産量は4,600千トン。約10年で1.5倍の伸び
- 緑茶は約1,500千トンで、中国の増加が大きく、
'01の513 → '12の1,248千トン
- 日本の生産量は全世界に対して1.8%の生産量(第8位)、緑茶では5.7%(第3位)



② 輸出動向について

- 緑茶の輸出動向は、世界規模で伸びて'12年には約330千トンで、そのうち中国が約250千トンと75%を占める。
- 日本の輸出量は2千トンで、全体の0.7%。

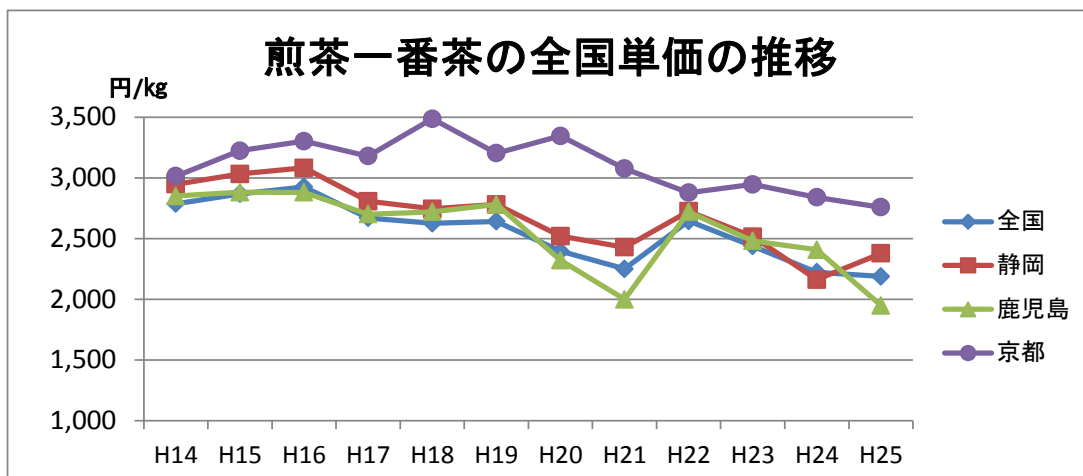
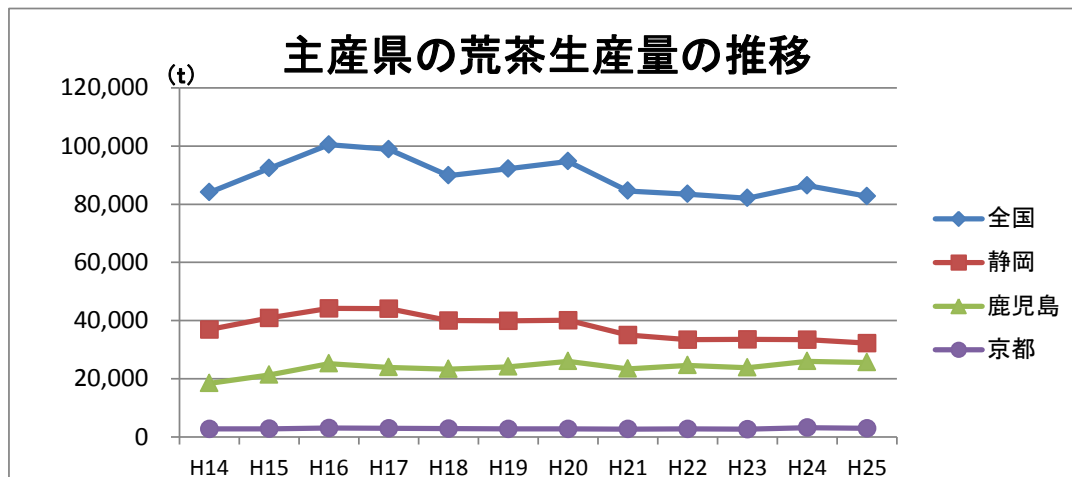
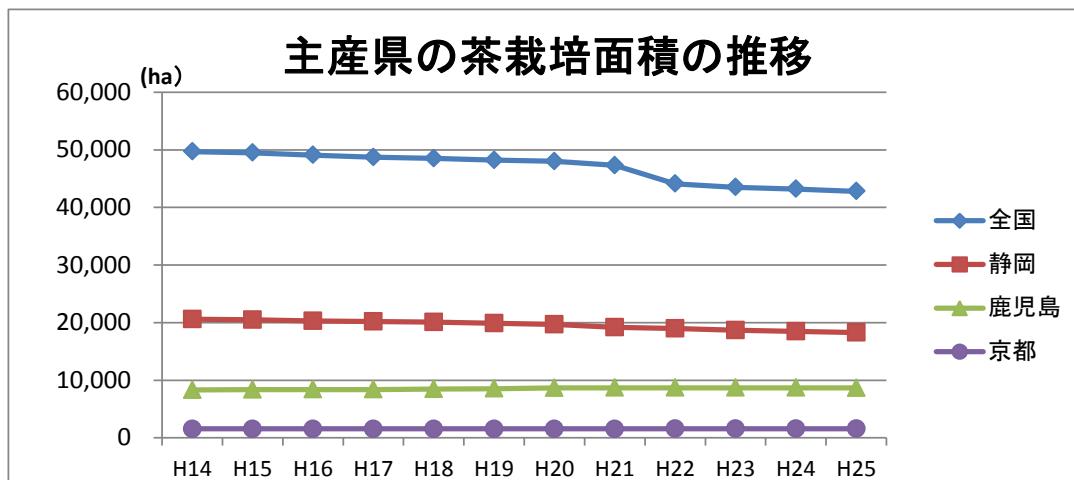


国内の茶の現状について

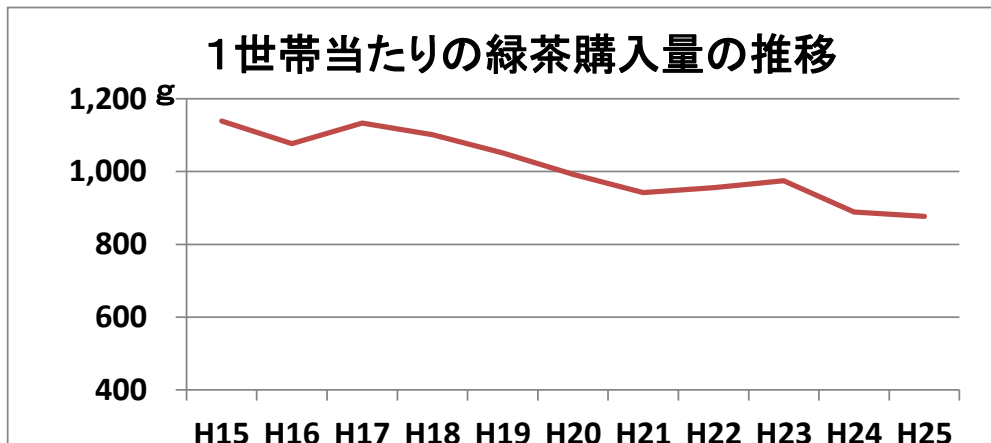
※資料中のデータの出典は全て(社)日本茶業中央会(特に明記のある場合を除く)

① 国内茶生産の推移

- 国内の茶栽培面積は、平成14年の5万haから平成24年の4.3万haと減少
- 荒茶生産量は、平成14年の8.4万トンから平成16年に10万トンに増加するものの、その後、減少し、平成24年は8.6万トン
- 煎茶の一番茶単価は、平成14年の2,787円/kgから平成24年は2,173円/kgと20%も下落



○ 緑茶の消費量は、暫時減少し、平成20年には、1世帯当たり1kgを割る。



- 緑茶の1世帯当たりの年間消費金額を見ると4,288円で年々減少傾向
- 一方、ペットボトル等茶飲料は6,052円で年々増加傾向

緑茶及びその他飲料に対する1世帯当たり年間消費金額

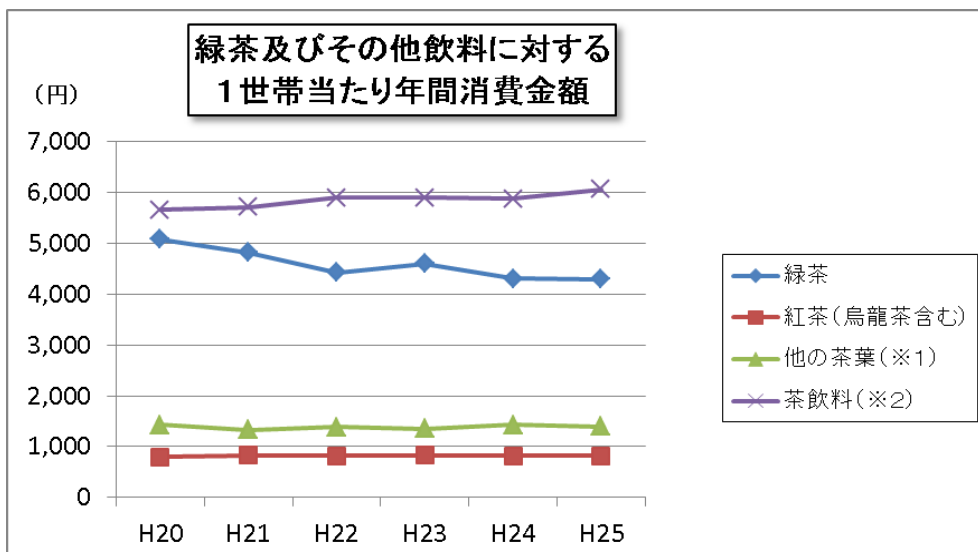
(単位:円)

	H20	H21	H22	H23	H24	H25
緑茶	5,073	4,809	4,424	4,591	4,300	4,288
紅茶(烏龍茶含む)	794	833	824	827	818	815
他の茶葉(※1)	1,427	1,334	1,388	1,355	1,434	1,400
茶飲料(※2)	5,655	5,700	5,889	5,889	5,867	6,052
(参考)飲料計	46,203	46,313	47,270	48,598	49,672	50,242

(※1)他の茶葉:玄米茶、ドクダミ茶、杜仲茶等

出典:(社)日本茶業中央会

(※2)茶飲料:液体飲料ペットボトル、缶

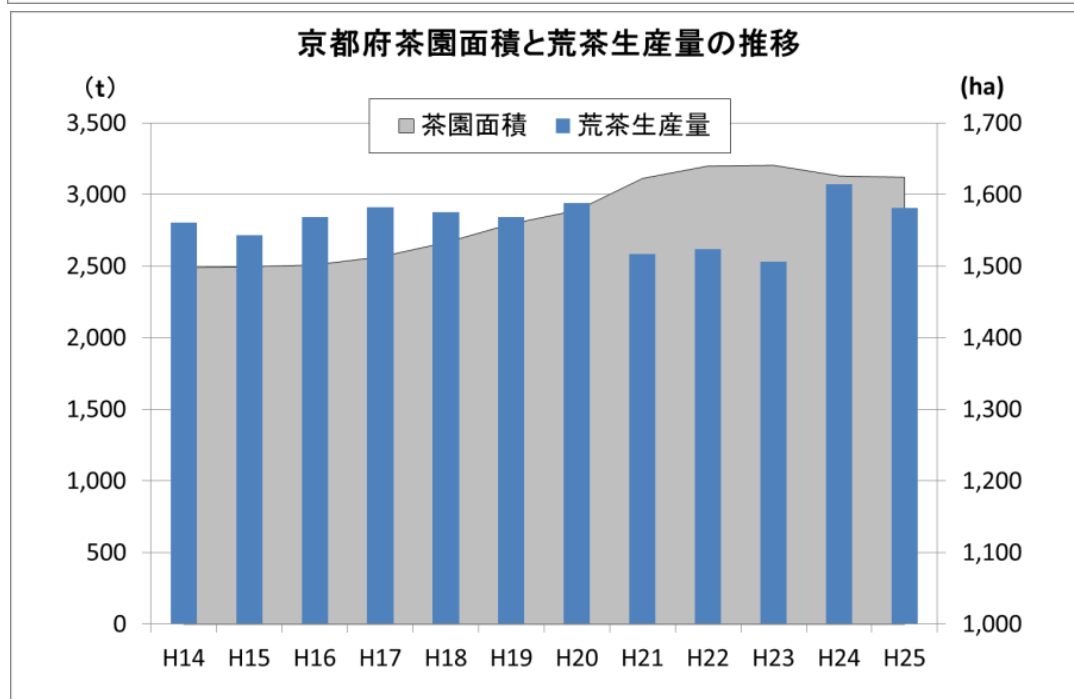
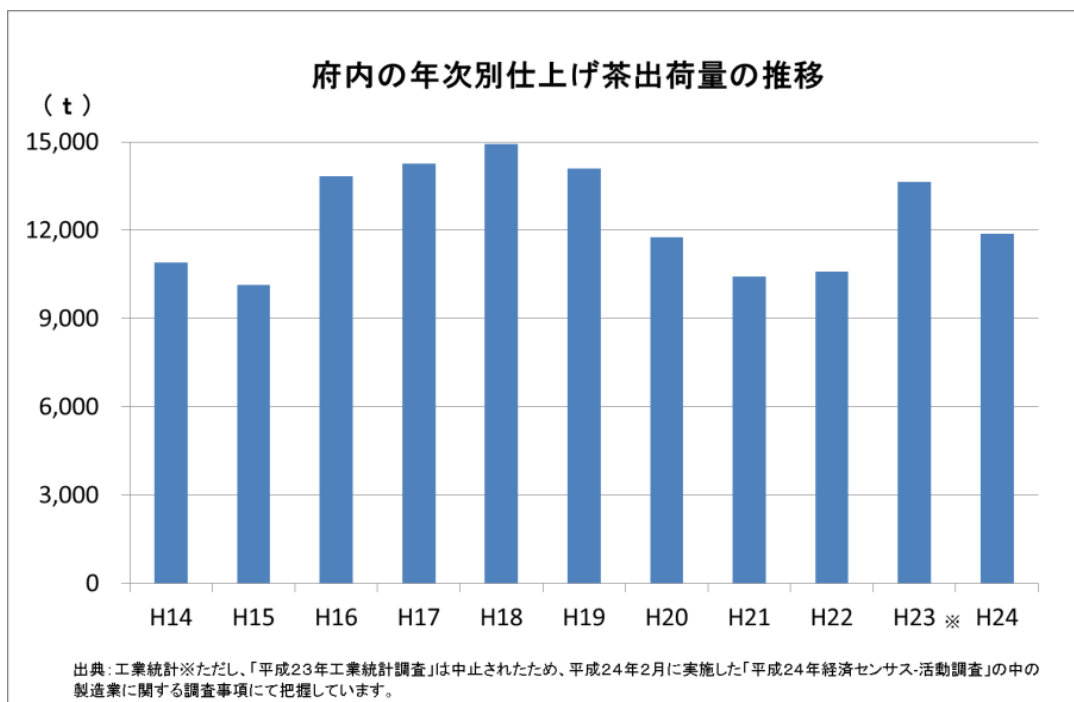


京都府茶業の現状について

※資料中のデータの出典は全て京都府茶業統計(特に明記のない場合を除く)

①宇治茶の取扱量並びに府内茶園面積と荒茶生産量の推移について

- 府内の仕上げ茶取扱量は約10,000 t (近隣3県を含む4府県産)。
- 府内の荒茶生産量は約3,000 t。
- 府内茶園面積は約1,600haで推移。



②茶種別の生産量と価格の推移について

煎茶

- 煎茶の生産量は年々下落しており、平成24年度にてん茶に抜かれた。
- 煎茶の単価は年々下落している。

てん茶

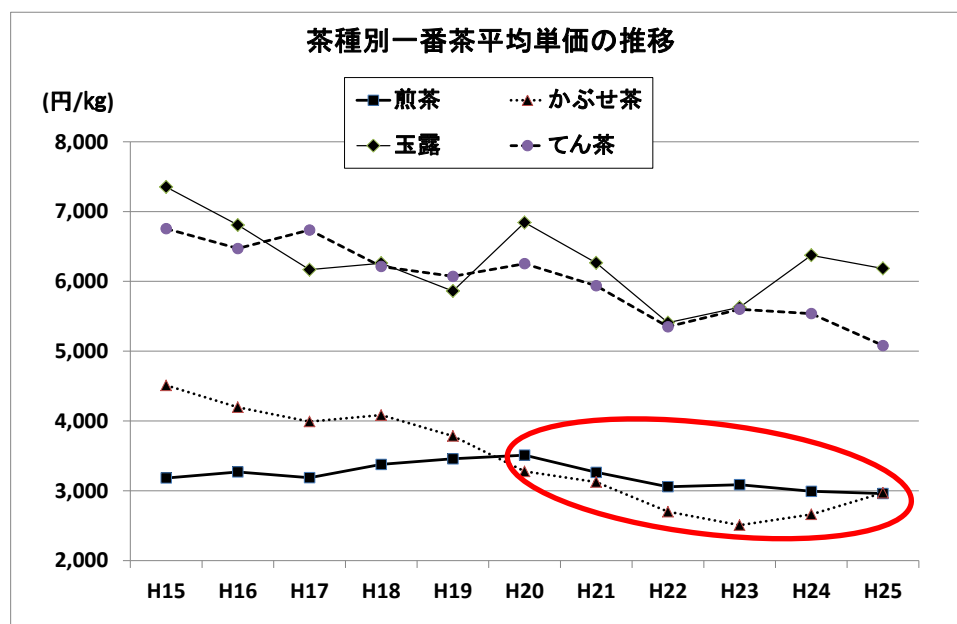
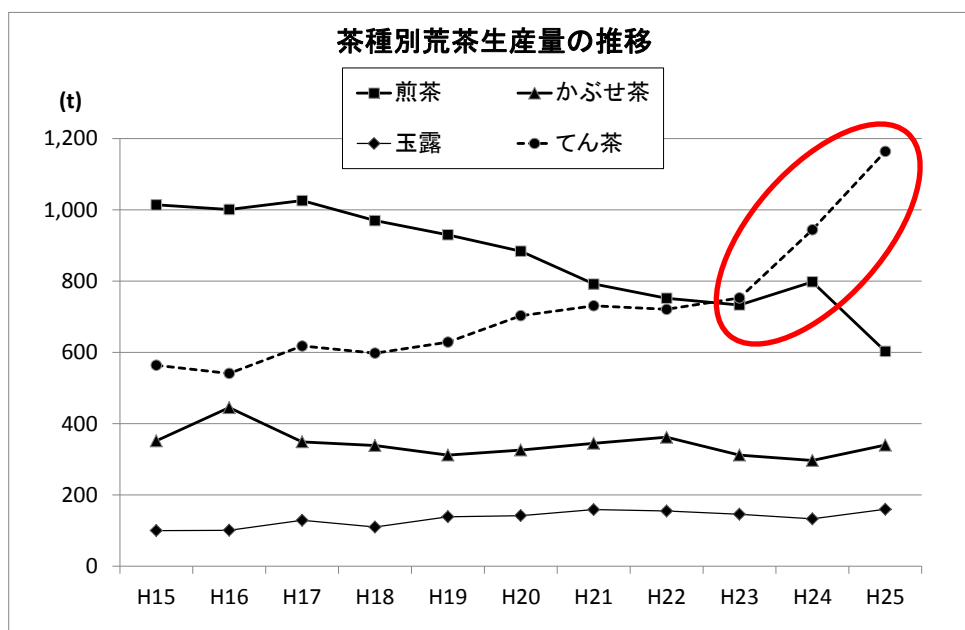
- 近年の抹茶需要の増大に対して、生産量が増加、平成24年度には煎茶を抜く。
- 相対的に、てん茶の単価も下落傾向。

玉露

- 玉露の生産量は微増している。
- 単価については年次変動が大きい。また贈答用需要が減少し、高級な「手摘み玉露」は単価下落している。

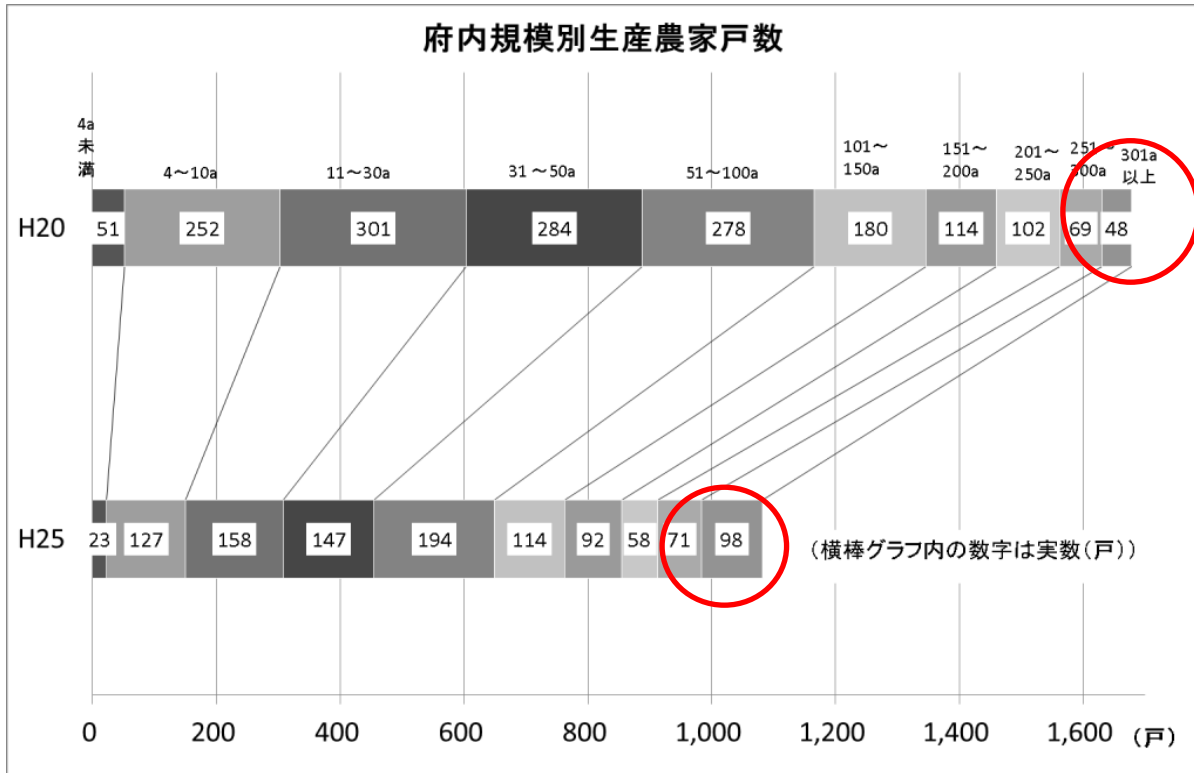
かぶせ茶

- 近年の生産量はほぼ横ばい。
- 単価については長らく下落傾向であったが、近年はやや上向き。



③府内生産農家戸数の推移について

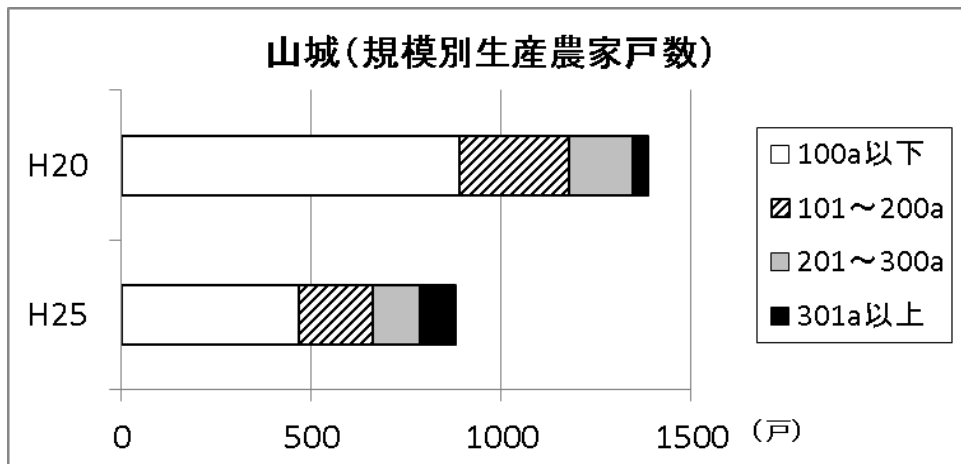
- 府内生産農家戸数は過去5年間で約600戸減少。
- 規模別に見ると、経営規模の小さな生産農家が減少傾向なのに対し、3ha以上の経営規模の大きな生産農家は増加傾向。



各地域別の状況

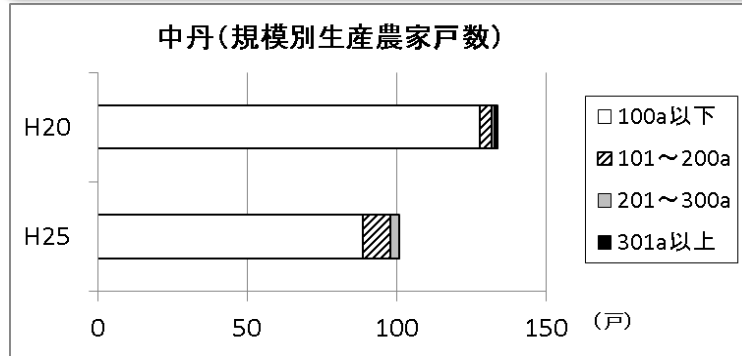
山城

- 山城地域の生産農家戸数は過去5年間で約500戸減少。
- 規模の小さな生産農家が減少傾向なのに対し、3ha以上の経営規模の大きな生産農家は増加傾向



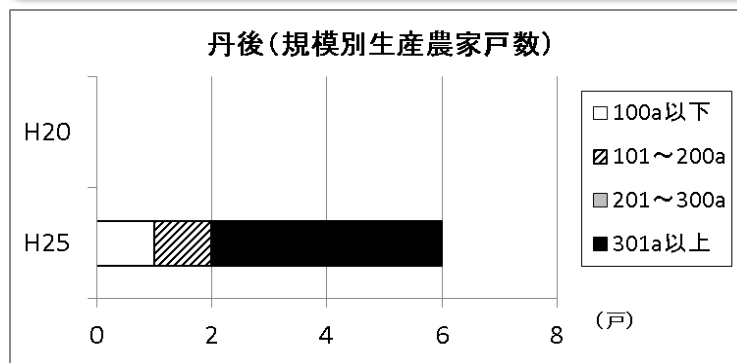
中丹

○中丹地域の生産農家戸数は過去5年間で約30戸減少。
○経営規模が1ha以下の生産農家が減少傾向なのに対し、1ha以上の生産農家は増加傾向



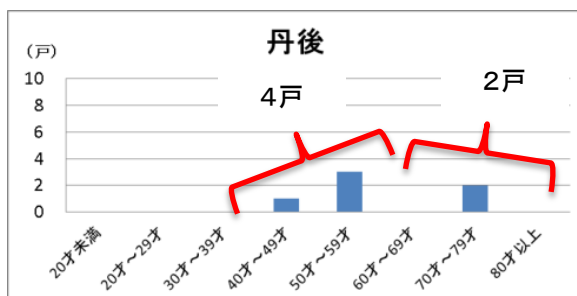
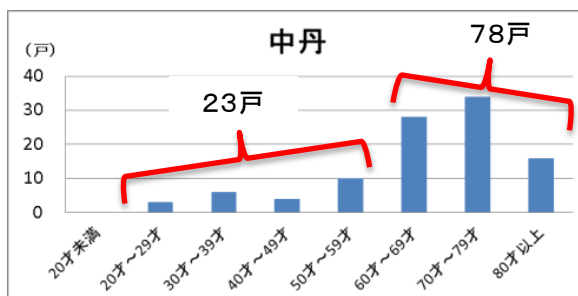
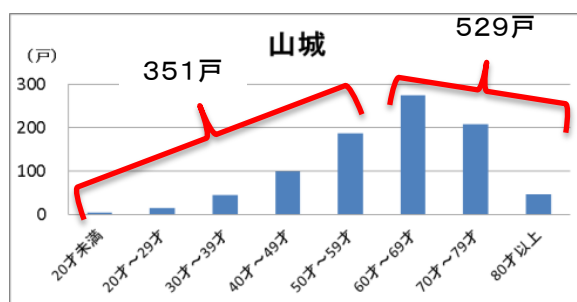
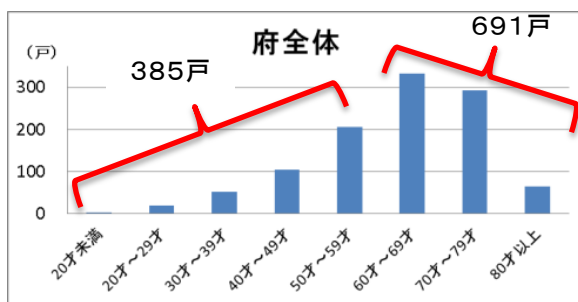
丹後

○丹後地域では平成21年度から茶生産を開始
○3ha以上の大規模生産農家が多い。



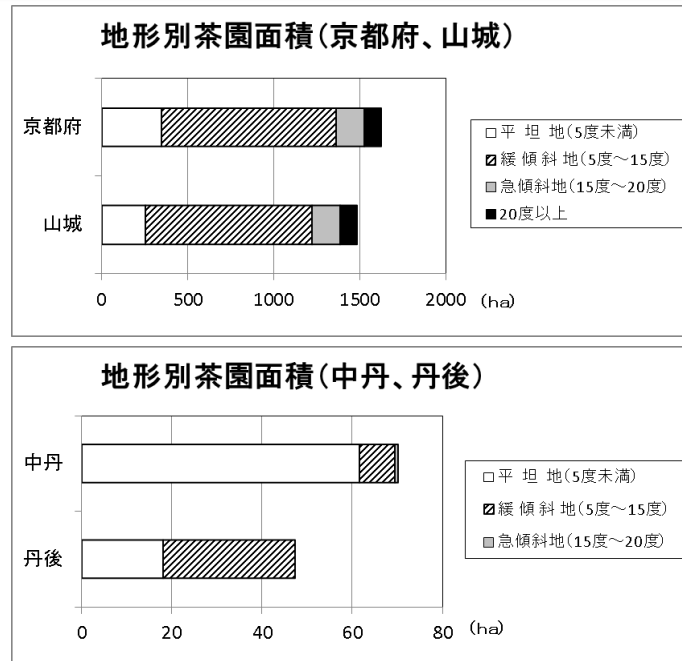
④年齢別生産農家戸数について

○府内の年齢別生産農家戸数を見ると、60才以上の高齢者が占める割合が高く、将来の京都府茶業の担い手不足が心配されるため、茶園管理の受け皿づくりが必要。



⑤地形別茶園面積について

- 地形別茶園面積を見ると、京都府では15度以上の急傾斜地が約260haあり、そのほとんどが山城地域である。
- 中丹地域は由良川流域の平坦地が約9割を占めている。
- 丹後地域はほとんどの茶園が国営開発農地にあり、緩傾斜地が6割を占める。



⑦製茶工場の状況について

- 府内の製茶工場は408棟あり、内8割の323棟がもみ茶工場、残り85棟がてん茶工場。
- 個人工場が約8割の347棟を占めている。

		個人	共同	農協営	その他	合計
もみ茶工場	H20	440	45	1	6	492
	H25	282	40	1		323
てん茶工場	H20	53	16	1	10	80
	H25	65	19	1		85

